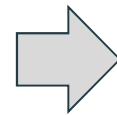


地元就職の割合を上げるために

湯沢翔北高校
普通科2年黒澤 元稀

湯沢市の現状とこれから

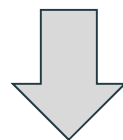
- 湯沢市の人口が減少している
- 少子高齢化が進んでいる



若者の地元就職率を上げることが人口増加また、地域活性化につながるのではないか

平成30年の秋田県の高校生の就職状況

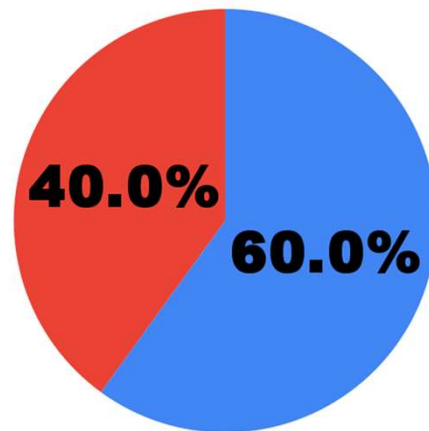
県内就職率**66.7%**



全国順位だと**40位**、東北順位だと**5位**

高校生2年生25人に県内就職か県外就職かを調査した結果

● 県外 ● 県内



この結果を通して感じたこと

なぜ地元就職の割合が低いのか？

高校生の
考え

働きたい仕事
が少ない

湯沢市の魅力
の少なさ

「地元で働く」ことへの理解不足



地元離れにつながるのではないかと

今年度の本校3年生の就職状況

県内就職率77%

- コロナ禍ということもあり、県内就職率が高かった？
- 他の理由で割合が高くなったのではないか？

地元就職した先輩方にアンケートを取って 分かった共通点

その1

就職を決めるのは高校2年生の冬から高校3年生であるということ

その2

地元就職した理由として元々地元で働きたいという思いがあった

ターゲットは中高生

- 就職を決めていない中高生をターゲットにする
 - 地元就職について興味が持ちやすい。
- 企業の紹介 + 地元で働く事のメリットを伝えることが大切では？

提言「中高生に向けて地元就職した人を特集したHPを作る」

- 湯沢市内でも企業博覧会があるが、若者が手軽にアクセスできるHPを作成することによって、簡単に情報入手でき、必要なときに見返すことができる。
- これまでよりも地元就職の良さをアピールすることが必要である。



湯沢市の若者の地元離れ減少につながるのでは